

澤村誠志(編著)

地域リハビリテーションと私

評者 金谷さとみ

菅間記念病院在宅総合ケアセンター

初めて澤村誠志先生の講演を聞いたのは、介護保険制度施行前の全国地域リハビリテーション研修会のことでした。主催者側の私の御礼に対する先生の返しがとても謙虚で、先生の素敵で人間性が一瞬で伝わってきたことが忘れられません。澤村先生の講演は淡々としたものでしたが、何の飾りもなく、さりげなく話す内容があまりにも偉大で圧倒されました。自分の理論を主張するようなことは一切なく、最初から最後まで障がい者に寄り添っていました。この著書を読み、あのとき聞いた澤村先生の感動の講演が鮮明に蘇ってきました。

本書には、前半に澤村先生が医師をめざしリハビリテーションにかかわるようになった経緯とその後の歩みが書かれていますが、驚くべきは、それに伴って日本のリハビリテーション自体が変わってくるさまがよくわかることです。マスコミで騒がれたベトナムの骨盤結合児を澤村先生が受け入れることになった経緯なども書かれています。そして、澤村先生が起こした変革の傍には、必ず当事者(患者や障がい者)が存在していたことに注目して読んでほしいと思います。近年、地域包括ケアシステムが叫ばれていますが、システムありきで形を整えるだけの取り組みならば長続きはしないはずで、背景に当事者がいて、当事者が「よかった」と思えるような具体的な取り組みを起こさなければ意味がありません。本書は、医療関係者やリハビリテーションに携わる者だけでなく、地域包括ケアシステムにかかわる行政の担当者にも読んでほしい一冊であると感じました。

本書の見どころは、後半にあります。日本のリハビリテーションを確固たるものにした澤村先生とその仲間の著者インタビューです。リハビリテーションにかかわる者なら誰でも知っている著名人との話のなかに、現在の日本のリハビリテーションの原型

がみえ、先生方の葛藤や決意を感じ取ることができます。そして、その仲間の誰もが澤村先生を敬愛していたこともわかります。

この世で、自分の人生を変えるほどの本や人物に出会える人はほんのわずかでしょう。私もそのわずかのなかには入れなかった平凡な人間です。しかし、私はリハビリテーションの仕事を通して尊敬できる偉大な人物を知ることができました。兵庫の澤村先生、本書の著者インタビューで最初に出てくる広島山口昇先生です。お二人に近づきたいなどとは思いません。存在するだけで明日への勇気が湧いてくるのです。



四六版・352頁
 定価：本体3,200円＋税
 シービーアール刊、2018年